

ボランティア通信 2018.12 Vol.224



なかま

発行 交野市ボランティアグループ連絡会
(交野市ボランティアセンター内)

V連絡会 E-mail vltr94@leto.eonet.ne.jp
Vセンター E-mail katabora1994@katano-shakyo.com

ボランティアを
紹介してほしい人
ボランティア活動を
はじめたい人
ボランティアセンター
にお問い合わせください
(☎894-3737)

第27回健康福祉フェスティバル 2018.11.11



ステージで歌体操 (HAND)



水餃子・おにぎりのブースで～す



今年、バザーと併設した古本市



高齢者疑似体験のコーナー



ステージで車いすダンス(ひまわり)



点字・点訳体験コーナー(虹の会)



植木市と糸ぐるま手作り品バザー



手作りおもちゃコーナー (玉手箱)

好天に恵まれ多くの来場者で楽しい一日となりました。ボランティアのみなさんの協力で大きな混乱もなく、それぞれのブースにおけるPR活動ができました。今年は連絡会バザーに古本市を併設しました。バザー用品、植木、書籍など多くの品物をご提供いただき、大変ありがとうございました。模擬店等の収益金はボランティアグループ連絡会の活動費に充当させていただきます。

ボランティア インタビュー69 西崎二三江さん (ひまわり)



ボランティア活動を始めたきっかけは

「ボランティア」には全く興味がありませんでした。ある日、突発性難聴に罹り、仕事が続けられなくなり退職。家にいても一人なので、介護相談員の面接を受けました。すると、これがすごく楽しい！人と接することが好きで、楽しくて、人との出会いが嬉しかったです。今では「人の役に立てるように」と活動を続けています。

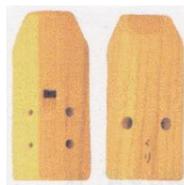
いろいろな活動されていますね

介護相談員、キャラバンメイト(認知症サポーター)、元氣アップ体操などもしています。人との関わりがすごく楽しいです。施設訪問が多いので、高齢者

の方たちと接する機会も増えます。毎回、違うお顔をみせていただき、こちらも元気になります。

和太鼓と樹音で気分転換

趣味は和太鼓演奏、樹音(オカリナの日本版のようなもの)をしています。



写真は、樹音のソプラノ、小鳥のような可愛らしい音色が特徴です

時間があればもつといろいろやりたいです。

「もつとボランティアを知ってほしい」と・・・

みなさんに声をかけるきっかけを探しています。実際にやってみないと分からないことがたくさんあります。

どうやったらみなさんに知って貰い、関わってもらえるのかを、いつも考えています。

私はすごく楽しいので、体力が続く限り、ボランティアを続けたいです。

リーダー会議 (11月27日)

☆連絡会より

・第27回健康福祉フェスティバルについて(1・2頁関連記事)

・同会計報告と振り返り

バザー(古本市を含む)・植木・水餃子等の関連経費を差し引いた実収益は159・661円で、昨年より2万9千円の増加。収益金は

連絡会の活動費に充当します

振り返りでは多くの意見が出され、とりわけ各ブース等におけるボランティアの配置と、人数の確保が今後の課題として出された

ボランティアセンターの大掃除

(2頁参照)

・市民交流フェスタの開催時期についての検討

今年の実行委員会の反省会で開催時期の変更について提起されており、これまでの夏休み開催から3月下旬の開催についてどうか、各

グループの意向を次回のリーダー会で報告をいただきたい

☆Vセンターから

・年末年始のセンター休館について(2頁参照)

・大阪府社会福祉大会開催(次号で報告)

☆各グループから(省略)

後	編
記	集

きらきら

ひかる冬

この時期になると街中は、クリスマス一色です。大人になった今は子どもだったころに比べれば、心躍るイベントでもなくなつてはきましたが、あちこちでクリスマスソングが流れ、きらびやかなクリスマスのディスプレイや電飾をまとった街路樹など、楽しい雰囲気になります。

そして、ここ最近では、プロジェクトシンマッピングというコンピュータでプログラミングした映像を音に合わせて、建物や空間に映し出すイベントもたくさんあり、冬の人気イベントになっています。確かにとても綺麗で驚きと感動もありますが、昔に外灯が少ない田舎へ行った時に本当の夜暗さを体験し驚いたと同時に、私が今まで見たことのない数の星が夜空一杯に広がっていた感動は今でも忘れません。あの静寂の中で眺める星空は、今まで見たどんなイルミネーションよりも美しく感動的な光景でした。(ユウヒ)

12月のボランティアサロン 災害ボランティアの活動や役割を知ろう！

ボランティアに関して、知る、学ぶ、交流する会を、毎月ひらいています。

12月は、9月4日の台風21号で被害を受けた方へのボランティア活動支援や災害ボランティアの活動や役割について紹介します。

経験も必要ありませんので、お気軽にご参加ください。

- とき : 12月19日(水) 午後1時30分～3時
- ところ : ボランティアセンター(1階)
- 対象 : 市内と周辺在住、在勤、在学の方
- 参加費 : 無料
- 申し込み : ボランティアセンター
072-894-3737

ボランティアセンター大掃除

6グループ33人が参加、結団になりました



11月19日(月)、ボランティアセンター秋の大掃除に6グループ(陽だまり、かざぐるま、アリス、さつき、星の会、虹の会)33人の参加がありました。曇天でしたが網戸も洗ってすっきりです。ボランティアセンターが建ってから21年になります、これからも長くに使えるように、ボランティアのみなさんのご協力をお願いします。

キッズボランティアが応援 共同募金ステージで司会！

健康福祉フェスティバルの共同募金ステージでは、司会にボランティアでご協力していただいた福光さんと共に今年はお野市内の中学2年生のお二人がキッズボランティアとして参加しました。「緊張したけれど、周りの人にサポートしていただけて楽しく参加できました。」「観客席に語りかけるように話すのが難しかったです。とても楽しく参加できました。」と感想を話していただきました。



和やかに司会進行をするキッズボランティアの中学生と福光さん

福祉体験「高齢者疑似体験」から 思いやりと配慮を学ぶ

ボランティアグループでは啓発活動の一環として、各グループのリーダー・サブリーダーが中心になって、社協職員のサポートを得ながら進めました。

この疑似体験は、「歳をとりたくない」「目が見えないことが怖い」ではなく、「自分だったらどんな風に対応されたら嬉しいか」「自分に何ができるか」を考え、高齢者や障がい者に思いやりの気持ちや配慮の視点について学ぶもので、今年も90人を超える市民の参加がありました。



上：装具を付けて階段の昇降



下：子どもに装具を取り付ける

**ボランティアセンターから
☆年末年始休館のお知らせ**
12月27日(木) 1月5日(土)
この期間中のセンターの利用はできません
☆お忘れ物を処分します
Vセンターでお預かりしている忘れ物について、お心当たりの方はご連絡ください

2019年版 点字カレンダーができました

ボランティアグループ点訳「虹の会」で

は、2019年版点字カレンダーを作成しました。

ご希望される方はボランティアセンターに申し込んでください。無料で進呈します。



配布は12月中旬以降になります。

男子中学生の職場体験

ベルマークの選別作業を体験

10月25日(木)「ほほえみ」に関西創価中学校から職場体験に来られました。孫より若い中学2年生の男子2名。礼儀正しい、清々しい態度のお二人でした。

ベルマーク選別の作業をしてもらいました。手順を説明すると、直ぐ作業にとりかかって、私たちが苦勞しているベルマークの小さい会社番号もスイスイとこなし、手際よく各々の袋に収納。私たちが時間をかけてやる作業を僅か2時間弱で終了。

「若いっていいなあ」と感じたひとときでした。(ブンちゃんママ)



どうして日本人は年齢を聞くの？

初めて会った人や付き合いのある人に、年齢や子供の有無を聞かれることがよくあります。年齢や子供の有無で自分の人生観を知られているようで、いつも悲しくなるので、調べてみました。

日本は「年齢がわかれば、相手のことが知りたいわかる」社会で義務教育等、ある程度の教養を持ち合わせている希有な国で、国全体で一定の「常識」が共有できる場合があり、受ける教育が均等であるため、価値観の違いは「世代間によるギャップ」が一番大きく認識される傾向が強いという説明に納得しました。

世代間のギャップを埋める方法を模索していきたいと強く思いました。(リリー)



二度目の大阪万博上手いくなあ

55年ぶり二度目の開催が決まった大阪万博、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに夢洲での開催に沸いたが課題も多い。まず会場建設費は1250億円。国と地元自治体、そして民間で3分の1ずつ負担とか、民間企業からだけの資金を調達できるかは不明。また夢洲へのアクセス向上のため、メトロ中央線の延伸工事に540億円が必要とか、いずれにしても大変なことで手放しでは喜べない。「経済効果は2兆円、これに付加価値がついて経済のパイが大きくなり、負の遺産を有効な資産につくりかえ、投資に見合うリターンが見込める」と関係者の鼻息は荒い。開催まで7年「負の遺産」といわれたベイエリアはどう変わっていくのか、期待通りになれば良いが、些かの不安が残るのも現実ではないだろうか。(K記)

除夜と鐘の由来



何故、鐘を108回撞くの

「徐」という言葉には、古いものを捨て新しいものを迎えるという意味があり、一年の最後、そして新年を迎える日となる大晦日は「徐」の日、すなわち「徐日」とされています。そのことから「除夜」とは大晦日の夜のことを指しています。

では、除夜の鐘はなぜ108回撞くのでしょうか。これには諸説があり、もともと有力なのが仏教の教義において、人間には108つの煩惱があることから、その煩惱の数だけ鐘を撞き煩惱を追い払うというものです。煩惱とは、欲望や怒り、苦しみなどの心の乱れを指します。また、中国では古くから「108」という数字を大切にしてきました。これに当てはめるように、一年十二月、二十四節気、七十二候をすべて足すと「108」になります。候とは二十四節気をさらに初候・次候・末候に分けたもので24×3で72となり、このようなことから除夜の鐘は108回撞くという説が広まったと思われる。

ネットの豆知識から